

週報

令和3年12月17日

2021~2022年度 No.12

2021-22年度 国際ロータリーのテーマ



奉仕しよう みんなの
人生を豊かにするために

国際ロータリー会長 シェカール・メータ

プログラム

SAA 三村 剛孝君

☆点 鐘

☆ロータリーソング斉唱

「それでこそロータリー」

☆四つのテスト唱和 職業奉仕委員会

☆食事懇談

☆会長の時間

☆幹事報告

☆委員会報告

①親睦委員会

・スマイルボックス報告

☆地区大会報告

☆新会員卓話

有川 真史君

☆点 鐘

現在会員					33名			前々回の欠席者(12/3)						5名	
本日	出席	19名	欠席	9名	免除(a)欠席	3名	免除(b)欠席	2名	出席率					67.86%	
前々回	出席	23名	MU	0名	免除(a)MU	3名	免除(b)MU	2名	修正出席率					82.14%	
月別出席率%	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6			
	本年度	78.71	休会	休会	81.53	77.59									
前年度	83.33	87.63	79.27	76.75	80.65	80.27	全休会(0)	75.93	78.09	82.34	全休会(0)	80.48			

例会場
例 会
事務所
カンパーナホテル TEL(0959)72-8111
金曜日(12時30分~13時30分)
長崎県五島市末広町8-4
福江商工会議所内 TEL(0959)72-3108

会 長 山 下 克 己
副 会 長 吉 田 泰 之
幹 事 橋 本 武 敏
雑誌:会報委員長 出 口 雅 昭

会長の時間

会長 山下 克己君

皆様、こんにちは。

昨日の雨で真冬に逆戻りです。ほんとに寒くなってきました。若い時に、古老の人たちが「冬の天気は、雨が降ったら、そのあとは風が強くなる。」と、言っていた言葉を思い出します。

本日は12月17日、12月度、第3例会、通算第12例会となります。

12回目の会長の時間を務めさせていただきます。

いよいよ本年も押しつまり、残すところ2週間となりました。心配されている新型コロナは、沈静化したまま小康状態が続いているようです。まだまだ予断を許さない状態であることに間違いはないと思います。ただ、コロナ対策ばかりで、通常の行事はほとんどが中断したままです。一番の活動目的である「親睦」さえも、ままたまならない状態が続いています。報道関係の予想では、春先頃には第6波という報道もあるようです。そこでですが、新年早々の1月7日の例会を夕刻に時刻変更して、その後、新年会を兼ねてIM実行委員会立ち上げに伴う決起集会を開催することと致しました。詳細については、橋本幹事をお願いしておりますので、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

さて、先週に引き続いて中国の古典についてですが、漢王劉邦の前で大臣の蕭何から、国士無双と紹介された韓信は、その後、漢の劉邦の別動隊として一軍を率い、縦横無尽の働きをすることになります。始皇帝亡き後、群雄割拠する各方面を転戦し、まさに国士無双というべき功績を残し、漢王朝の樹立に大きく貢献することになります。ちなみに、「排水の陣」というのがあります。兵法の常識を覆す、川を背後とする陣形のことですが、この言葉もこの韓信の故事に由来していると言われています。このことは、今日でも考えられることだと思います。

「仕組み」を変えることは、簡単にはできないので、「仕方」を変える。ということだと考えます。連戦連勝の韓信でしたが、「狩りが終われば猟犬は不要となり、煮て食われることになる」という、腹心の忠告に耳を貸さず、時を逸することになります。漢王劉邦が漢帝国の初代皇帝、高祖となると粛清されてしまいます。『狡兎死して、良狗烹られ、高鳥尽きて良弓蔵れ、敵国敗れて謀臣滅ぶ』という言葉が残されています。生き方の

難しさをつくづく考えます。

これまで、先に范蠡の話をしました。年代的には300年程の差がありますが、対照的な生き方をした二人を例に挙げました。

これも中学時代の恩師に言われたことですが、「読むなら、伝記ものを」と指導を受けました。今でも、大変感謝していることです。

今日はこれくらいにしておきます。

ご清聴ありがとうございました。

幹事報告

幹事 橋本 武敏君

『当クラブ関係』

1. 第4回定例理事会について

12月10日に開催されました定例理事会において、次のとおり承認され決議されました。

①12月24日開催の年次総会において、2020～2021年度（昨年度）決算報告を追加して行います。

②先日の例会で、清瀧記録・保存委員長より問題提起がありました、紙ベースで保存されている資料や写真等のデータ化、および保存方法等について、戦略計画委員会にて早急に協議、検討します。

③（年明け）1月7日例会終了後、新年会、並びにIM決起大会を開催したい旨、山下会長および吉田IM実行委員長より提案があり、開催の可否、方法等について、会長、幹事一任となりました。現時点において、1月7日の例会開始を18時30分に変更し、引き続き新年会、およびIM決起大会を開催する方向で調整中です。追って案内の文書を配布しますので、ご出席のほどよろしく申し上げます。

『地区関係』

1. 例会休会および変更のお知らせ2件

2. ガバナーエレクト事務所より（年末年始）

「事務所休業のお知らせ」

3. 米山記念奨学会マンスリーニュース「ハイライトよねやま」

4. 地区大会事務局より「地区大会動画配信のお知らせ」

5. ロータリー文庫運営委員会「ロータリー文庫デジタル化済資料廃棄の件」

6. 比国育英会バギオ基金「2020年事業報告書」

『その他』

1. 福江中央ロータリークラブ週報第12号

委員会報告

出席報告

- ◆12月17日（免除(a)欠席者）
中村 博義君 植松 郁雄君 釜崎 洋君
- ◆12月17日（免除(b)欠席者）
北島 博志君 吉田 泰之君
- ◆12月17日欠席者
森田 大輔君 出口 雅昭君 神之浦文彦君
片山 雅文君 山里 一郎君 谷川 久利君
小畑 和男君 松岡 孝博君 坂井 成光君

親睦委員会

スマイル報告

- ◇谷川 和啓君 古希のお祝い、ありがとうございます。
います。
- ◇吉田 泰之君 スマイル会優勝しました。
- ◇中村 栄治君 吉田さん、スマイル会優勝おめでとうございます。
西上裕一郎君、地区大会報告よろしくお願ひします。
- ◇張本 民雄君 吉田さん、スマイル会優勝おめでとうございます。
西上裕一郎君、地区大会報告よろしくお願ひします。
有川真史君、新会員卓話よろしくお願ひします。
- ◇山下 実君 寒いねえ。
- ◇西上裕一郎君 地区大会報告をやらせていただきます。よろしくお願ひします。
- ◇有川 真史君 新会員卓話をやらせていただきます。よろしくお願ひします。
- ◇橋本 武敏君 西上裕一郎君、地区大会報告よろしくお願ひします。
- ◇中村 陽二君 ”
- ◇才津 喜彦君 ”
- ◇三村 剛孝君 ”
- ◇寺澤 信義君 ”
- ◇山下 克己君 有川真史君、新会員卓話よろしくお願ひします。

- ◇清瀧 誠司君 ”
- ◇戸田 博之君 ”
- ◇中村 吉廣君 ”
- ◇柳田 靖夫君 ”
- ◇平村 和弘君 ”
- ◇宮本 光藏君 ”

合計 24,000円
通算合計 304,000円

地区大会報告

西上裕一郎君



11月27日土曜日、国際ロータリー第2740地区2021-2022年度地区大会本会議が、長崎市の出島メッセ長崎で開催されました。

11月1日に開業したばかりの出島メッセ長崎は、今回地区大会が行われたコンベンションホールが約2,700平方メートル、他にイベント・展示ホールが約3,800平方メートル、会議室が大小24室もある常設展示場複合型MICE施設です。開業まもない施設なので、とても綺麗でした。ただ、周囲がまだ工事中のところが多く、以前の長崎駅方面から行ったのですが迷路のようになり、少しわかりにくく感じました。

13時、塚崎ガバナーの点鐘により本会議が始まりました。国歌やロータリーソング「奉仕の理想」は斉唱ではなく、新型コロナウイルス感染症対策としてソプラノ歌手の福地友子さんの独唱で行われました。物故会員の追悼のあと、長崎中央ロータリークラブの川原哲也会長よりホストクラブ挨拶があり、「来賓紹介」「ガバナー歓迎の言葉」と続きます。

次に「参加クラブ紹介」です。例年であれば、グループごとに各ガバナー補佐が紹介した後に参加クラブの出席者が返事をしていましたが、今回は各グループのガバナー補佐が発声後、5秒から10秒程のクラブ紹介ビデオが流れるという形で行われました。福江ロータリークラブも、張本ガバナー補佐の発声後に例会で撮影したビデオが流れ

ました。例会会場をゆっくりスクロールし、三村さんの「以上です」で締めるビデオです。福江中央ロータリークラブも後で慌てて撮影したのか、全く同じ演出のビデオでした。

次に「来賓祝辞」で中村県知事、田上長崎市長から祝辞があり、本年度のRIシェカール・メーター会長よりメッセージビデオでロータリーの活動への積極的な参加や、会員増強への呼びかけがありました。

次に塚崎ガバナーより「地区現況報告」です。新型コロナウイルス感染症の影響により、ガバナー公式訪問の多くが会長・会長エレクト・幹事との懇談会のみだったり、Zoomによるオンライン懇談会だったりしたこと、ロータリー奉仕デーは海岸美化運動に多くのクラブが参加いただいたこと、8月の佐賀県長崎県豪雨災害には、たくさんの義援金が集まったことの報告がありました。また、第2740地区の会員数が56クラブで2,066人であること、地区委員会の活動などが報告されました。特に、会員増強への呼びかけに多くの時間を割いていました。次に「記念事業発表」で、佐賀県と長崎県に新型コロナウイルス感染症などの医療対策費として、佐賀県と長崎県へ寄付をすることを発表されました。

ここで第1部が終了です。

時間がおしていたため、休憩時間が5分間のみとなりました。自分はトイレやロビーが込み合いそうなので席に残っていましたが、他の参加者は慌ててトイレに行っていたようでした。

そして、14時20分より建築家 隈研吾氏による記念講演「オリンピック・コロナ・まちづくり」が始まりました。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、隈研吾氏は世界的に有名な建築家で、日本文化をベースに様々な地域の文化を取り入れ、細い線状に木材を配置したり、四角形を多用したり、特徴的なデザインの建築物を世に送り出しています。長崎県美術館や今年行われた東京オリンピックのメイン会場である、新国立競技場も隈研吾氏が手掛けています。講演の内容は、ほとんどがご自身が手掛けた建築物の紹介で、報告では説明しにくいので省略します。講演の最後に隈研吾氏は、日本は昔から自然や資源を大切に守りつつ利用して生きてきた、つまりサステナブルに生きていく事を実践してきたのが日本であり、これを世界に広めていきたいと話していました。建築家という肩書を通して、SDGs実現を目指しているのではないかと思います。

休憩をはさみ、第2部へと続きます。

「青少年関係紹介」で始まりました。7カ国から日本へ来ている米山記念奨学生を紹介、次年度国際青少年交換学生を紹介、ローターアクトクラブの活動紹介と鎮西学院大学ジャズアンサンブルローターアクトクラブの演奏が行われました。

次に「各委員会報告」です。地区大会の登録状況や2022-2023年度ガバナーと2023-2024年度ガバナーの発表、9件の「大会決議内容報告」がありました。

続いて報告のあった大会決議の採択が行われ、9件すべてが可決されました。

次に「クラブ表彰」です。さまざまな賞の表彰がありました。

次に「カバナーエレクト紹介」です。佐賀ロータリークラブの上村春甫(しゅんぼ)カバナーエレクトが、夫人と共に人力車に乗って入場しました。自己紹介に続き、2022-2023年度地区大会開催ホストクラブの佐賀ロータリークラブが入場し、PRと参加の呼びかけがありました。

次に「カバナーノミニ紹介」です。佐世保北ロータリークラブの緒方信行カバナーノミニが紹介され、挨拶をされました。

次に「塚崎ガバナーの謝辞」があり、来年のヒューストンで行われる国際大会の紹介ビデオも放映されました。

最後に、花島光喜直前ガバナーへの感謝状記念品贈呈が行われ、塚崎ガバナーの点鐘で閉会となりました。

以上、地区大会の報告でした。

新 会 員 卓 話

有川 真史君



ただいまご紹介に与りました、私は有川真史と申します。まずは、今日は貴重な例会の時間を割いてこのような場を設けて頂きまして、誠にありがとうございます。今年の6月に入会をさせて頂いた時にも簡単な自己紹介をさせて頂きましたが、このように卓話という形で改めてお話をさせて頂

けるという事でございますので、つまらない話だとは思いますが、最後まで耳を傾けて頂ければ幸いです。

私は昭和56年2月5日生まれで、現在ちょうど40才という年齢になりました。事業所は、松山町の方で有川新石材という石材業を営んでおります。40才という節目に福江ロータリークラブへ入会させて頂いて、本当に光栄に思っている所ではございますが、子供の頃は40才にもなれば、さぞ大人としての貫禄も出るのだろうと思っておりましたが、お恥ずかしい話、出てきたのはお腹の辺りばかりで、子供の頃に思い描いていたダンディな40才とは程遠い状況でございます。ただ、これからロータリークラブの先輩方とお付き合いをさせて頂く中で、精神的にも成長出来るようにしっかりと自己研鑽に励んで参りたいと思っております。

私は40年前に誕生した時、一人ではありませんでした。ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、実を言うと私は二卵性の双子でございます。私は、その双子の兄としてこの世に生を受けました。双子の兄と言っても、先に出たか後から出たかの違いで大きな違いはないのですが、どこかで皆さんとお会いした時に話しが噛み合わなかったり、どこかよそよそしい感じがした場合には弟の方だと認識して頂ければ助かります。子供の頃はよく二人で川や山に遊びに行ってはヤンチャをして、生傷が絶えない比較的活発な幼少時代を過ごしておりました。ちなみに、私たち二人には幼い頃からのニックネームがありまして、私がマー坊で弟はヤン坊でした。小学校の低学年の頃には、「ヤン坊マー坊天気予報」という予報番組から「明日の天気は何？」と毎日のようにさんざんからかわれました。そんな事もあり、人から名前や顔を憶えて頂けるのは比較的早い方だと思っております。私の名前が真史（マサフミ）で、弟は康亜（ヤスツグ）というのですが、名付け親は父ではなく、今は亡き叔父の一男から付けて頂きました。私は父方の祖父から、弟は母方の祖父の名前を取って付けられたそうです。

父は、私が子供の頃は毎日のように夜遅くまで働いていました。帰ってくるのは私たちが寝静まった後で、クタクタになって帰宅しては1人遅い夕食を食べていました。その上、土日休まず働いていたので、子供の頃に遊んでもらった記憶はほとんどありません。そんな姿を見て、「あんなに働かないといけないのなら、大人になんかなりたくない」と、いつも思っていたのを覚えております。ただ、そういった環境の中でも姉が3人と双

子の弟が1人の5人兄弟だったので、少しも寂しく感じる事はありませんでした。それどころか、5人もいると兄弟喧嘩が絶えなかったり、貰った物は全て5等分だったりしたので、むしろ一人っ子が羨ましく感じる時もありました。それから中学・高校と進学をして、高校を卒業する前に島外の会社に就職が内定しました。父は五島を出ていく事に大反対でしたが、それでも何とか「3年以内に辞めて帰って来る事」が条件で働きに出ました。

私が就職したのは、広島県にある自動車メーカーのマツダ株式会社で、入社式が終わるとすぐに約3か月の研修期間がありました。信じられない程の広大な敷地に、数えきれない程の社員がいて、田舎者の私には毎日が圧倒される日々でした。自動車工場では、1日に1つのラインで数百台の車を生産しており、昼夜を問わずにシフト交代で働いていたので、1つのラインで1ヵ月に1万台以上を生産しておりました。そんな環境で働いていると、すぐにホームシックで故郷の五島が恋しくなり、外に出て初めて地元の良さや親の有難みを感じるようになりました。それでも良い上司や先輩方に恵まれて、楽しく広島での生活を送っていましたが、勤め出してから約1年半が過ぎた頃、当時の上司から「有川、勉強は出来るのか？」と唐突に声を掛けられました。マツダの会社が運営する短大に通って専門知識や技能を身に着ければ、卒業後にはスムーズに昇進出来るというお話をされました。「勉強しながら基本給も貰えるから挑戦してみんか？」と言われましたが、まさか自分にそのようなお話を頂けるとは想像もしていなかったので、正直とても嬉しかったです。ただ、いずれは五島に帰郷しなければいけない約束と、自分自身も故郷へ戻りたいという気持ちがあったので、上司や先輩に事情を話しお断りをしました。また、同時に年内一杯で退職をしたいという事もお伝えをしました。

翌年の2001年に帰郷し、現在の有川新石材に入社をしました。最初は故郷に帰って来られた嬉しさと開放感から、地元の友人と遅くまで飲んだり騒いだりしておりました。もちろん、現在は若い頃のように騒いで人様にご迷惑をお掛けするような事はなくなりましたが、お酒を飲む事自体は当時よりむしろ今の方が好きなので、メンツが足りない時には有川とお声掛けを頂けたら幸いです。趣味は読書や映画鑑賞、それから現在は運動不足解消に定期的にランニングなどもしております。スポーツはよく出来そうに見られがちな

のですが、実はあまり得意ではありません。ただ、最近ゴルフをさせて頂く機会がありましたので、これを機にお付き合い程度に始めていければと考えております。

五島に帰って来てからは、仕事に関して言えば以前の職場のように条件は良くなかったですし、入社したからといって3ヵ月間の新人研修がある訳でもありませんでした。仕事で失敗したりすると職人氣質の厳しい父からよく怒鳴られました。以前の職場では同じ作業ばかりを1日中繰り返していたので、現場に合わせて創意工夫をしないからの作業はとても楽しく新鮮でした。時には作業中の不注意で怪我をする事も度々ありましたが、特別大きな事故もなく今日まで何とかやってこられたのは、父や叔父からの厳しい指導があったからこそだと、今更ながらに感じている所あります。

まだまだ若造の私が一人前と呼べるのかは分かりませんが、少なくとも石屋としての基本的な知識や技術、そして商売人としてのあり方など様々な事を教えて頂いたと思っております。また、私の座右の銘は「為せば成る、為さねば成らぬ何事も」でございます。これからの世の中、様々な事が大きく変化をしていく時代だと思えます。その時代の波に乗り遅れる事なく一步一步邁進していきたい、そのように考えております。有川家が祖父の代から石材業を開業してから数えると、かれこれ100年以上の歴史があります。長い間ご愛顧頂いているというお陰様の感謝の気持ちを忘れる事なく、地域の皆様に少しでも喜んで頂けるように、日々サービス向上を意識して業務に励んでおります。今後も、石材業としての仕事をしっかりと継承するとともに、めまぐるしく変化を遂げる現代を生き抜くために、時代に即した経営戦略で持続可能な会社にブランディングしていければと思っております。そして、その延長上にはいつも故郷である五島市の発展に微力ながら貢献出来るように頑張りたいと思っております。そういった意味でも、福江ロータリークラブへの入会は私にとってターニングポイントだと思っております。これから長いお付き合いになると思いますが、今後も諸先輩方のご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

最後になりますが、福江ロータリークラブへの入会にご承認頂きました全ての会員の皆様、そして入会するきっかけを作った張本民雄先輩、またこれまで約20年間に巨りクラブに在籍し活動してきた叔父である一男に、心からの敬意と感謝

を申し上げまして、簡単ではございますが私からのご挨拶に代えさせていただきます。

本日は最後までご清聴頂きまして、誠にありがとうございました。